氏　名	山口　健一
職　位	COE 研究員

研究概要

報告者は、2009 年度、次世代研究ユニット「在日朝鮮人社会の親密圏と公共圏の変容」（ユニット幹事）ならびに「マイノリティ・コミュニティにおける社会運動の諸相 ― 京都・東九条を事例として」（ユニットメンバー）において以下の研究を行ってきた。

①在日朝鮮人と日本人との間で形成される公共圏の事例研究（「在日朝鮮人社会の親密圏と公共圏の変容」）。在日朝鮮人と日本人が参加する「パラムせんだい」という事例に着目し、相互行為秩序の分析を行った。そして相互行為論からみる公共圏の再編成のプロセスの解明を目指した。その結果、（1）在日朝鮮人に関する論題について語れない現代日本社会では、〈個人間の親密なつながり〉という社会的結合様式によってその論題に関するコミュニケーションができたこと、（2）日本人／在日朝鮮人といった集合的アイデンティティを全体表象せずに、個人を表象することによりコミュニケーション実践していることが明らかになった。

②「東九条マダン」という民族まつりにおける公共性の研究（「マイノリティ・コミュニティにおける社会運動の諸相」）。在日朝鮮人と日本人がともに主体的に形成する民族まつりである「東九条マダン」における公共性について考察した。その結果、（1）「東九条マダン」は、第一義的には在日朝鮮人の民族文化を扱うが、副次的だが不可欠なものとして、東九条地域に住む被差別者・社会的弱者（老人や子供、在日朝鮮人、被差別部落民、障害者等）の歴史や現状を提示する歴史的・社会的側面を有していること、（2）それらの諸要素を包含した民族まつりを成立させるために、「東九条マダン」は、従来の政治運動や社会運動が有していた排他的な特定の理念やイデオロギーから独立した表象形態をとっていること、（3）しかしながら東九条地域における被差別連帯の諸運動と連続している「東九条マダン」は、反差別と人権という観点に抵触する特定の理念やイデオロギー（あるいはそれに基づく活動）を排除することが明らかになった。

業績リスト

山口健一、2010、「京都市の在日朝鮮人集住地域にみる『多文化共生』の理念」『GCOE Working Papers 次世代研究 13　在日朝鮮人社会における親密圏と公共圏の変容』、5-16 頁。

K.Yamaguchi, 2010, “A Case Study on the Communication Mode between Zainichi-Koreans and Japanese”, *Proceedings of the 2nd Next-Generation Global Workshop*, pp.129-137.

【国際会議等での報告】

片岡千代子・山口健一、2009、「『地域』に根ざした『共生』の民族まつり」、ソウル大学日本研究所・京都大学文学研究科 GCOE 国際学術交流ワークショップ。

山口健一、2009、「在日朝鮮人－日本人間のコミュニケーション様式の事例研究」、京都大学－ソウル大学国際学術ワークショップ「コリアン・ディアスポラの親密圏・公共圏の変容」

【その他】

山口健一、2009、「ソウル大学日本研究所・京都大学文学研究科 GCOE 国際学術交流ワークショップ」、News Letter『Intimate and Public』Vol.3、6 頁